

13.07.13~15 光岳・聖岳山行報告書

M3 荒川 晶

①参加メンバー

M3 荒川 M2 田中 (計 2 名)

②コースタイム

7/12~13 飯田橋 22:00~02:00 駒ヶ岳 SA04:20~05:45 易老渡への林道ゲート 08:30~09:10 便ヶ島

7/13(Sat)

便ヶ島 09:30~易老渡 10:00~面平 11:30~14:20 易老岳 14:45~17:00 光岳小屋(行動時間: 7 時間 30 分)

7/14(Sun)

光岳小屋 04:30~光岳・光石往復~05:30 光岳小屋 06:00~08:10 易老岳 08:25~09:45 希望峰 10:00~茶臼岳 10:35~10:50 茶臼小屋分岐付近 11:20~12:30 上河内岳の肩 13:00~15:00 聖平

(行動時間: 10 時間 30 分)

7/15(Mon)

聖平 06:00~薊畑 06:30~08:05 聖岳 08:20~09:00 小聖岳 09:20~09:50 薊畑 10:20~13:05 西沢度 13:20~便ヶ島 14:00(行動時間: 8 時間)

③総評

以前より一度訪れてみたかった南アルプス南部。アプローチは悪く、主脈へと至るには、飯田側の易老渡か、あるいは静岡側の畑薙第一ダムからのアクセスのみとなり、いずれも自動車を利用してしか行くことが出来ない。今回は日程が 2 泊 3 日と付近の山々を周回するにはやや短かったこと、また畑薙第一ダムから利用できる東海フォレストのバスには乗車に関して制約(※1)があるため、易老渡から光岳・聖岳を周回するコースを選択した。

梅雨明け発表はされていたが、折悪く梅雨前線が東南北部に停滞し、3 日も曇りに時々雨の混じる天気であり、眺望にもあまり恵まれなかったのは少々残念であったが、それでも南アルプス独特の急峻な水食谷、そして下界とは隔絶されたとてつもなく山深い雰囲気、光岳周辺の静かな樹林帯、聖岳の岩峰の存在感には圧倒され、充実した 3 日間を過ごすことが出来た。在学中にこの山域は是非もう一度訪れてみたいが、果たして叶うだろうか。

※1 東海フォレストが運営する小屋への宿泊者のみ利用可能。往路で乗車する際は、¥3,000 分の宿泊利用券を購入する必要があり、復路での乗車には小屋宿泊者限定で配られる乗車券が必要。

④本文

0 日目(7/12~13): 易老渡への道

大学生協限定でレンタカーを安く借りられる日産レンタカーの飯田橋店に 22:00 に集合。飲酒運転ではないかと思われるふら付いたトラックにぶつけられそうになりながら、夜の中央道を經由して駒ヶ岳

SA で少々仮眠。松川 IC で高速を降り、山中に忽然と現れる R474 の高規格トンネルと、改良工事の進む R152 を経由して、易老渡に至る林道を進む。途中林道の通行危険区間があり、08:30～17:00 のみ通行可能、とされていた。事前の入山者による情報によれば、ゲートを動かせばそれ以外の時間も自己責任で通行可能、とあったのでそのつもりでいた。しかし現地に来てみると、アテが外れて、ゲート前で県警のパトカーと飯田市の職員の車がガッツリと警備をしていた。「本当に 08:30 まで開かないのですか」と聞いたら「本当に 08:30 まで開きません」とのこと(※1)だったので、林道の途上で不貞寝。(私は寝られなかったが M2 田中はここで少々仮眠していた模様)

到着時点で既に 20 台近くの車が足止めされていたが、その後も続々と車が集まり、最終的には 50～60 台の車が林道上でゲートの開通待ち。ようやく 08:30 にゲートが開通して、09:00 過ぎに便ヶ島に到着した。水分の補給と出発の支度をして 09:30 頃出発。

(※1)この翌日 7/14～8/31 は、途中の道の駅に立ち寄り簡単な説明を受ければ、08:30 前でも通行許可が出そうな雰囲気でした。



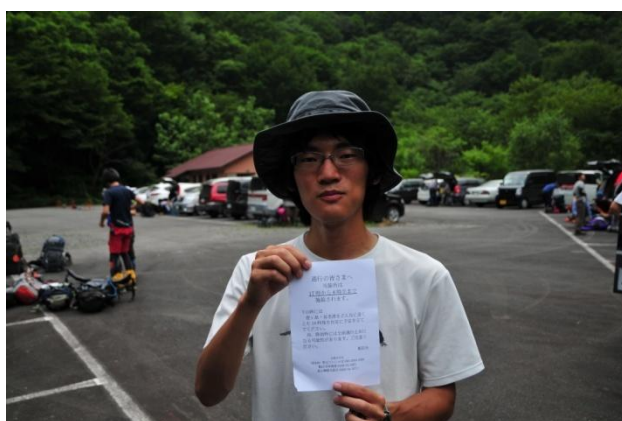
林道入口はパトカーが停車して通行規制中。



ゲート手前では車が溢れています。



開通後、確かに荒れている道を前の車を追いながら走ります。やや渋滞気味。



途中、市の職員の方に通行の手引きを貰います。この 1 枚のために 3 時間待ちですか・・・

1 日目(7/13) 便ヶ島～易老渡～易老岳～光岳小屋

予定では便ヶ島で水を補給して易老渡へ引き返し出発予定だったが、便ヶ島方面へと向かってくる車が多く対向が困難だったので、そのまま下車して、易老渡へと歩いて引き返す。多少休憩も兼ねてゆっくりしていたので、出発は予定していた時刻より大幅に遅れて 10:00 に。易老渡で車を停めた人も多いようで、我々がこの日ほぼ最後に出発した模様。ちなみにこの時一緒に出発した 2 人連れの方は、この日、光岳まで至ることが出来なかったようだ。

小さな橋を渡り、易老岳までのひたすら長い登りを歩く。登山道入口付近は急峻な斜面のジグザグ道を歩きながら登る。途中登山道が崩落しかけている場所もあり、少々注意を要した。尾根まで出れば多少は歩きやすくなり、休憩を挟みながらやや急ぎ目のペースで登る。面平付近の桧の大木が広がる光景は、神社の森に迷い込んだようで壮観であった。立ち枯れた木の並ぶ区域を抜け、馬の背と呼ばれる少々急峻な岩稜帯を抜けて、14:20 頃、ようやく易老岳に到達した。途中、前泊し光岳を往復してきたと思われる軽装の登山客としばしばすれ違った。

出発時間が遅くやや焦って登ってきたことや、道中仮眠程度の睡眠しか取っていないこともあり、易老岳に着いた時点で私は少々バテ気味。20 分ほど横になって仮眠を取ったら回復したが、その間続々と登山者がやってきて、ちょっと気恥ずかしかった。



易老渡の登山道入口の橋を渡る。最初の登山者が登り始めてから 1 時間ほど遅れてしまった。



針葉樹林の中の急登。崩落しかかった箇所もあり。



尾根に出て、広葉樹林が増えてくる。



面平付近。立ち並ぶ桧の巨木が圧巻であった。



途中立ち枯れた木々が並ぶ場所も。



馬の背を越えていく。

易老岳からはようやく稜線歩きとなる。今まで殆ど休みなしの登りだっただけに足取りも軽い。シダの茂る登山道を歩く。途中には何箇所か小さな湿原もあり、雨の多いという南アルプス独特の樹林の雰囲気を楽しみながら歩いた。三吉平を過ぎるとゴーロ状の谷筋を登る光岳への登りとなる。ここでタイミング悪くガスに巻かれ、雨が降り出す。雨具を付けて、手前の水場で水を汲む。途中のセンジヶ原付近では、小さいながらも綺麗な木道の整備された湿原を歩き、17:00 前に漸く光岳小屋に到着した。テント場は既に大方埋まっており、何とか水捌けの良い場所に設営出来たが、我々の到着後にも 5.6 張テントが増えていた。林道の通行止めで大幅にコースタイムが遅れてしまったので、早々と夕食の支度をして就寝。風が強く、この日は雨の止み間はあったものの、テント場は終始ガスに包まれていた。



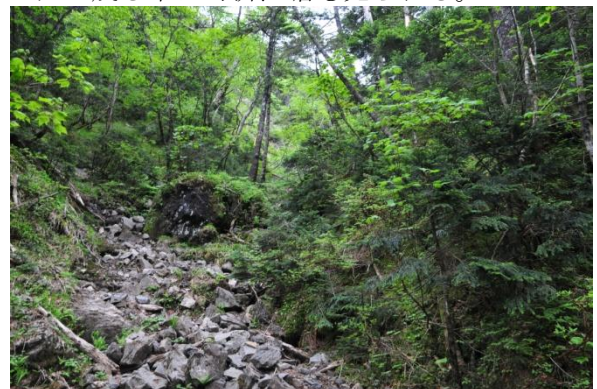
易老岳山頂の看板。展望はなし。



シダの茂る中に時折池塘も見られる。



時々視界の開ける場所も。縦走は気分が良い。



ゴーロ状の谷筋を光岳を目指して登る。



光岳小屋手前の水場。水量は比較的豊富。この近くにも水場があったが、殆ど流れていなかった。



光岳小屋からテント場を見下ろす。こじんまりとした広場に色とりどりのテントがひしめく。

2日目(7/14)：光岳小屋～光岳・光石～イザルヶ岳～易老岳～茶臼岳～上河内岳～聖平

早朝 3 時に起床。南アルプスは山深い上に宿泊可能な小屋が少ないこともあり、この時刻になると次々と人々が活動開始。簡単に朝食を済ませて、テント内に荷物を残して、4 時過ぎに光岳・光石方面へと出発。食事中に雨がパラつき不安ではあったが、出発時には高曇りの天気であった。

15 分ほどで光岳の山頂に到着。雲間から丁度ご来光であった。さらに光石まで足を進め、しばし鑑賞。光岳山頂からはほとんど眺望はないが、付近にある展望台や光石から眺める、大無見山や寸又方面の山並みが静かに佇んでいる風景には不思議と深い感動を覚えた。山頂で出会った人に写真を撮ってもらって、再び光岳小屋に戻り、テントを撤収して出発準備。



光岳山頂にて。ちゃんと 2 人で登りました。



付近の展望台より、まだ果てしなく続く山並み。



登山道はよく踏まれた湿地帯。



光石がそびえます。

出発は 06:00 頃に。昨日もそうだったのだが、相変わらず今日も稜線では風が強い。出発時点では曇ってはいたものの遠方まで視界は利いたが、いずれガスが出るものと予想して歩き始めた。昨日雨に降られて景色を楽しむ余裕のなかったセンジヶ原の湿原を楽しみ、折角なのでイザルヶ岳にも立ち寄る。こちらからは遮る物のない素晴らしい眺望を楽しむことができた。結局今回の山行で、稜線上のピークから展望を得られたのはこのイザルヶ岳のみであった。再び登山道に戻り、昨日歩いた道を易老岳まで歩く。2 時間ほどで易老岳に到着し、ここでしばしの休憩。



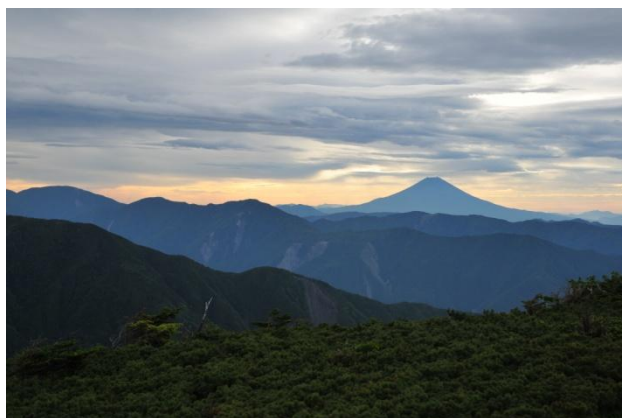
出発前に光岳小屋を。小さいですが綺麗な小屋でした。



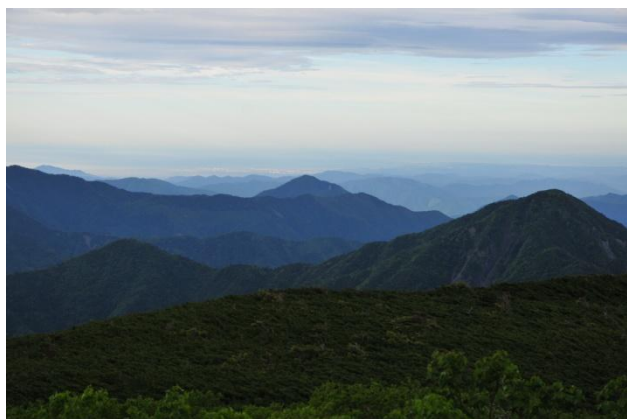
センジヶ原の湿原も、小さいながらお花畑もありました。



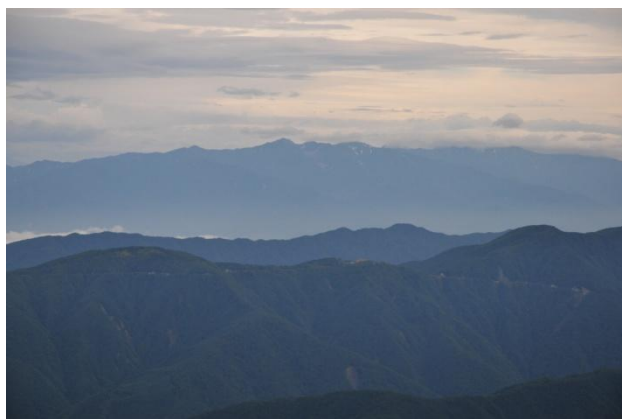
イザルヶ岳の山頂にて、聖岳までの縦走ルートが一望できました。



東を向けば、青薙山の稜線、その向こうに富士山。



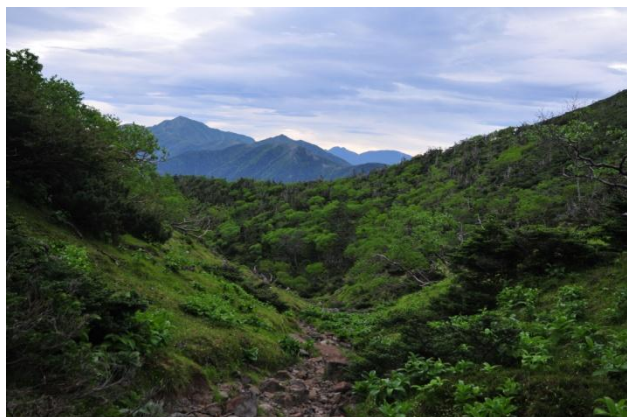
南方には連なる山の向こうに静岡の町が見えます。



しらびそ峠方面と、その向こうの中央アルプス。

ここで昨日歩いた易老渡からの道とは分かれ、聖平方面への道を進む。平坦な湿原の様な樹林帯の中を 1 時間ほど歩き、少々の上りを終えると希望峰に到達。予想はしていたが、早くもこの時点で稜線はガスに巻かれ、眺望は殆どなくなってしまったのは残念であった。縦走ルートから少し外れた所にある仁田岳までの往復を考えたが、稜線上が余りに風が強いので断念。

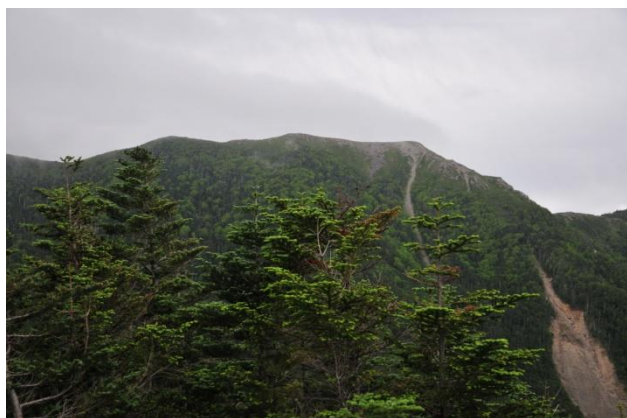
ここからは森林限界を越え、稜線区間を含んだルートとなる。北方向から吹き付ける容赦ない風に耐えながら、途中仁田池の脇を通り茶臼岳を通過。風が強かったのもそのまま通過し、茶臼小屋への分岐付近でしばし休憩を取ることにした。



昨日歩いた谷筋を下る。聖岳の姿も。



易老岳を過ぎても樹林帯は続く。



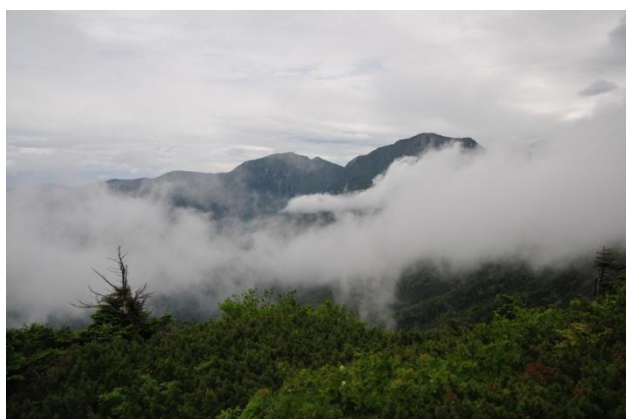
仁田岳へ向かう稜線。この後ガスに隠れる。



希望峰に到着。仁田岳には立ち寄らず。



昨日同様、ガスに巻かれながら歩き、仁田池のそばを通り過ぎる。



風はとても強い縦走路だったが、一瞬だけガスが晴れる時もあった。聖岳が姿を見せる。



茶臼岳に到着するが、ガスに巻かれ風も強かったのでそのまま通過。



茶臼小屋付近の休憩地点にて。時折ガスが晴れて青薙山が姿を現す。

休憩中も近くの縦走ルートは同方向に歩く人々で賑わっており、何パーティーかがルートを歩いて行く姿を見かけた。また、休憩中、聖平から光岳へと縦走する登山者とも二言三言言葉を交わした。

30 分ほど休憩を入れて上河内岳方面を目指す。稜線ルートは風に吹かれ、相変わらずガスに包まれていたが、再び樹林帯へと入り、湿原が静かに広がる光景を楽しみながら歩く。上河内岳の肩への登りに差し掛かると、再び稜線に出る。強い風にバランスを崩しそうになりながらガレた登山道を 30 分ほど登って、肩に到着する。

ここでもしばし休憩。ピークを踏むか迷ったが、60 代後半と思われる 4 人グループが元気そうにピークへの道を登り始めたのを見て、負けてはいられないと思い私 1 人でピークを往復してくることにした。ガスに巻かれ何も見えなかったが、短い距離でもあり空荷だったので、登り 5 分ほど、下りは 2.3 分でサッと舞い戻ってきた。その後は聖平に向けての道を下る。何箇所か切り立った斜面があったが、カールの中を歩くルートなので風にも吹かれず落ち着いて歩くことが出来た。途中数か所の雪溪を見かけ、うち 1 か所をトラバースする。時折ガスの切れ間もあり、策ヶ岳方面の稜線と、その遠景に佇む優美な富士山の姿を楽しみながら、南岳に到着。あと 1 時間少々で今日の行程が終わりともあり、安心してしばらく休憩。

ここからの稜線歩きでも、時折ガスが切れ、聖平を眺めることも出来た。しばらくすると樹林帯に入り、ぬかるみの残った道を下ると聖平小屋に到着した。



ガレた登山道。ここから樹林帯に入る。



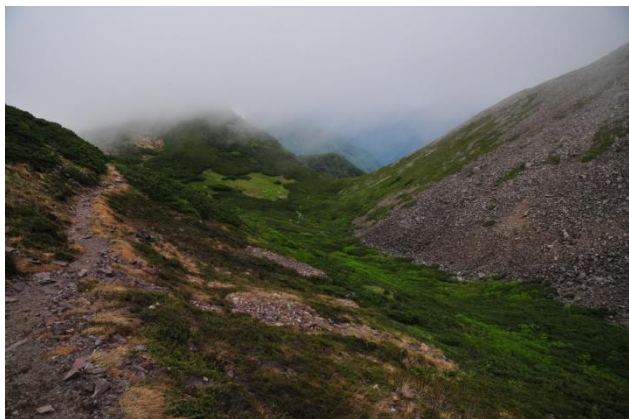
山中に突然現れる湿原。



上河内岳を往復する。ガスで展望なし。



山頂付近より肩を見下ろす。



南岳に向けて歩く登山ルート。



雪渓をトラバース。遠景には富士山も。



日影沢を望みながら縦走する。



聖平を遠望しながら樹林帯の道を歩く。

聖平に到着後すぐに雨が降り出したので、急いでテントを設営して、中に籠る。まだ 15 時過ぎではあったが、早朝からの縦走で疲れが溜まってきたこともあり軽くひと眠り。その間に田中は聖平小屋を散策し、ビールを半値で仕入れてきたのと、トイレが水洗だったのでいたく嬉しそうであった。

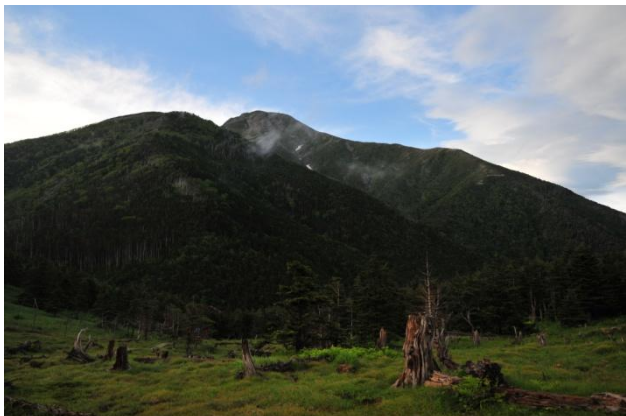
テント場は広く、50 張近くが設営されていたがまだスペースには余裕があった。一帯は始め濃いガスに包まれていたが、早めに夕食を食べて外に出てみると晴れていたのもので、登山道への分岐部まで散策した。天気は思った以上に良く、夕陽を浴びて、上河内岳や南岳、またはるか遠くに今日の縦走を開始した光岳や加加森山が並んでおり、美しい光景だった。再びテントに戻り、明日の好天を期待して 19 時半ごろには就寝。



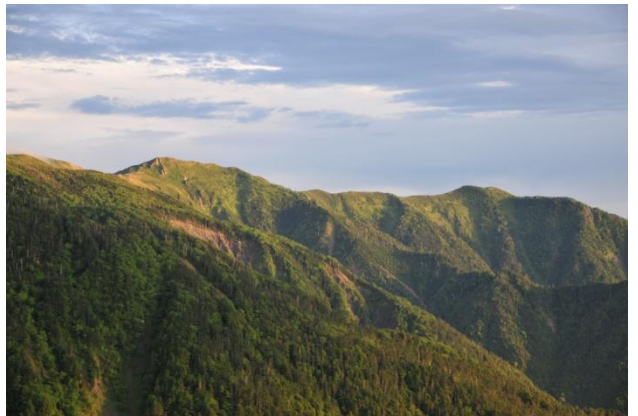
ガスに包まれたテント場。スペースは広い。



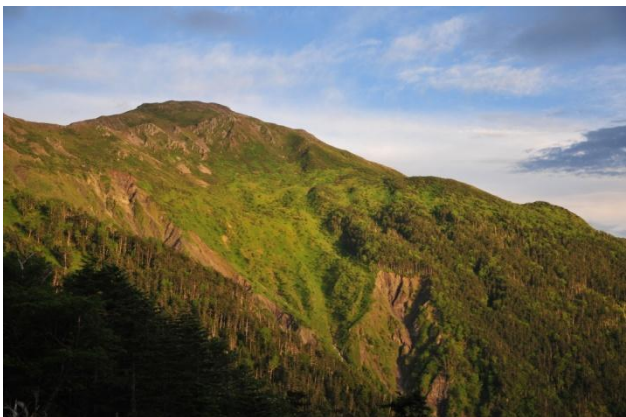
遥か遠くに光岳と加加森山。



後ろを振り返れば聖岳がそびえていた。



夕焼けに染まる茶臼岳・易老岳。



上河内岳も存在感のある立派な 200 名山。



夕焼けはクライマックスを迎え、山々が輝く。

3 日目(7/15) 聖平～薊畑～聖岳往復～西沢渡～便ヶ島

天気は安定すると見込んで穏やかな夜を過ごせるかと思っていたが、夜半過ぎから次第に雨風が強まり、テントをたたき雨の音でしばし目が覚めた。聖岳へのルートは遮るもののない稜線の直登ルートであり、この天気では風雨に打たれるのみ、それでも折角ここまで来たのだからせめてピークハントだけでも、という気持ちが頭の中を周巡し、あまり熟睡出来なかったように思う。

予定通り 3 時頃には起床し、天候が落ち着くのを期待し、朝食を済ませてしばらくの間待機。雨が強ければ聖平にテントを設営したまま往復することも考えたが、風も強かったが次第に雨は小降りになっ

てきたので、薊畑に荷物をデポすることにして、5時半頃からテントを撤収し6時前に出発する。

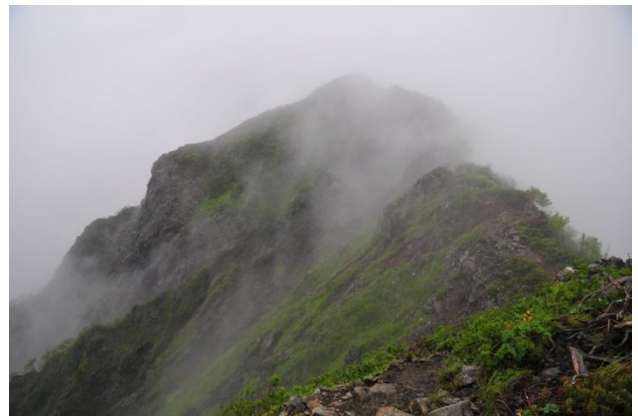
ルートは深いガスに取り囲まれており、樹林帯の中の急登に行く。30分ほどで薊畑に到着し、荷物をデポしておく。既に先に出発した登山客が置いていった荷物が複数個並んでいた。

薊畑を出発してから40分ほどで森林限界を越える。ここからは強い風に吹きさらされながら小聖岳を越え、聖岳への直登ルートに入る。ルートは尾根筋の若干東側に付けられていたので、思っていた以上に風を浴びずに済んだ。森林限界を越えたあたりから、早朝の出発組と多数すれ違うようになった。このタイミング等から大体の山頂到達予想時刻を推測しながら歩く。

山頂には08:00過ぎに到着。ガスは相変わらず濃く、周囲の展望はなかったが時折青空が顔を覗かせていた。途中ほぼ休みなしで登って来て多少疲れていたことと、下山時刻のことや、展望がなかったことも考え合わせ奥聖岳の往復はカット。往復していた人によればライチョウがいたらしい。



ガスの中、急登の登山道を歩く。



小聖岳付近はやせた尾根筋を歩く。



ザレたジグザグ道の登山道を聖岳目指して登る。



山頂にて記念撮影。眺望はなかった。

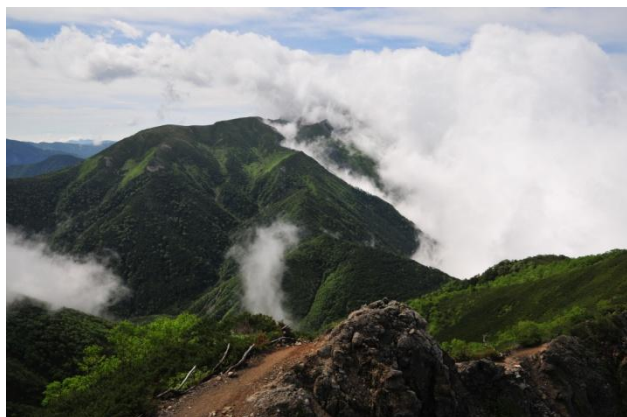


山頂付近。ザレた石の多い山であった。



山頂の碑を撮影。雲の切れ間から青空も。

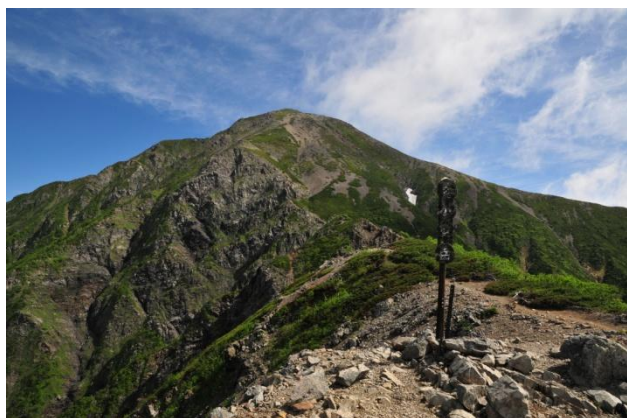
記念撮影を済ませて下り始めると、少しずつガスが薄くなってくるような気がする。それは予感ではなく実際にその通りで、気がつけばあれほど重苦しく一帯を覆っていたガスは霧消し、青空の広がる光景となっていた。もう 1 時間ほどゆっくり出発していれば、山頂で晴れたのだらうと思うと少し勿体ない気もしたが、それでもこの山行の最後で好天に恵まれたのは本当に幸運であったと思う。小聖岳付近まで歩き、相変わらず強い風に打たれながら、周囲に大きく広がる景観を楽しんだ。樹林帯に再び戻り、薊畑で荷物を回収。ここでも来ていた雨具やザックカバーを乾かして、しばらく休憩を入れる。途中ではこれから北岳まで縦走するという登山者とも出会い、ここが人気の山域であることを改めて実感した。



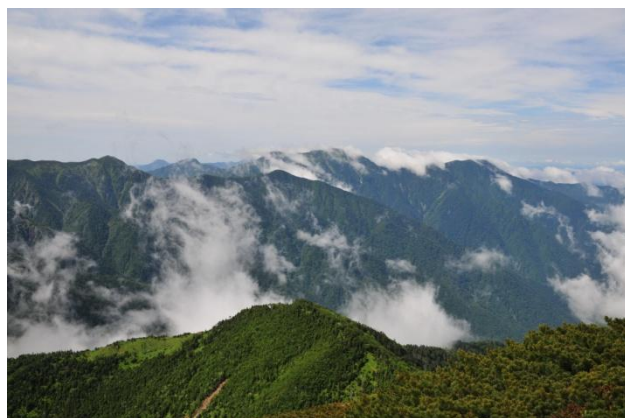
縦走路から、聖平～南岳の稜線を望む。



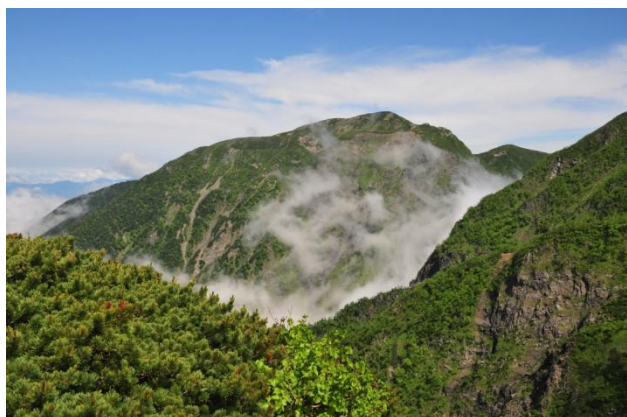
小聖岳までのヤセ尾根。雲がまだ少し残る。



小聖岳から聖岳を遠望。ボリューム感は百名山なだけあり、圧倒的であった。



まだ少し雲が残るが、易老岳・光岳方面の稜線を望む。青味がかった緑が美しい。



赤石岳方面への縦走路にある兎岳を撮影。



聖平・上河内岳を遠望する。緑が美しい。



薊畑より易老岳方面の尾根、そして光岳など。



夏の日差しが差し込む薊畑。

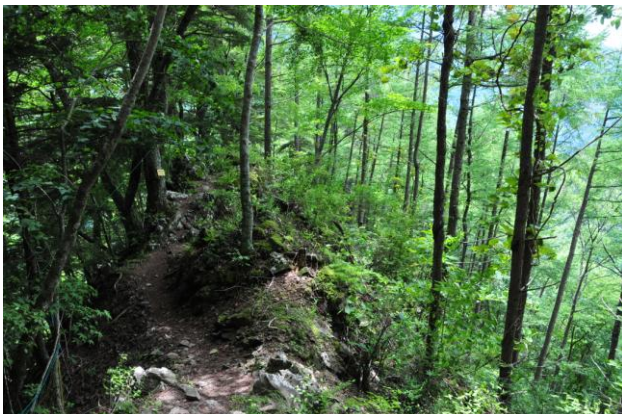
薊畑で荷物を整え直して、いよいよ稜線から便ヶ島へのルートへと下る。途中は昨日歩いた縦走ルートのようにシダが生い茂り、また湿原も見られ、この一帯が雨の多い山域であることを実感した。なだらかな下りの尾根を下るルートであったが、苔平を過ぎると少しずつ登山道は勾配を増していき、何箇所か急斜面のヤセ尾根を下る箇所もあり、思った以上に緊張を強いられる箇所も多かった。落石を起こさないように注意しながら(実際何箇所か落としてしまったのだが…)慎重に下ってゆく。西沢渡付近の溪谷が少しずつ見られるようになり、廃屋となった小屋の脇を通り過ぎて、渡渉点に辿り着く。



苔平。深い樹林帯は足元も湿っていた。



日が差し込む尾根を歩く。



次第に尾根がヤセていく。



西沢渡に向けて急な斜面を下る。

渡渉点には木橋もあったのだが、荷揚げ用の人力ロープウェイがあり、折角なので人力で渡ることにした。動滑車がなく、ロープ 1 本で結わえられていたので、随分渡渉するのに時間が掛かった。ここから便ヶ島までは廃道となった林道を歩く。土砂崩れで道が殆ど埋まってしまった箇所もあり、この一帯の自然の厳しさを改めて実感した。最後に短いトンネルを抜けて、車を置いた便ヶ島には 14:00 前には到着することが出来た。



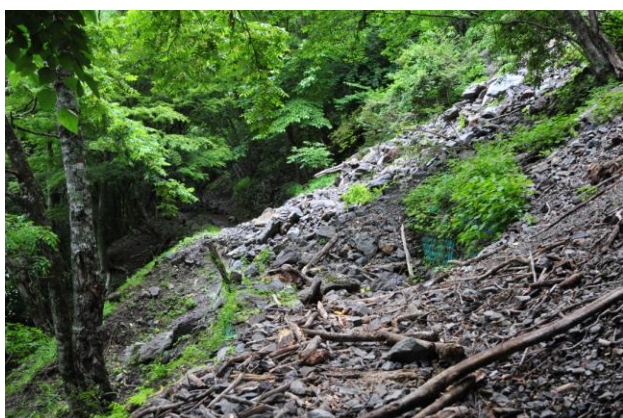
ロープウェイ全景。



ロープウェイはこちら。中央に 1 本通されたロープが写真内のすべてのロープと繋がっており、これを引っ張ることによって、前後に移動することが出来る。頑丈ではあるが、重く、後続の登山客に手伝って貰いながらも、渡り切るのには 15 分ほど掛かった。



ロープウェイと隣にある木道。木道を使った方が断然早いが、増水時には頼りになる存在。



林道はほぼ原形をとどめているが、何箇所か土砂崩れに遭い、そのままになっている場所があった。



きちんとした道は付いているが、通過に注意を要する。



便ヶ島手前のトンネル。



便ヶ島の駐車場にて。車は殆どいなくなっていた。

連休最終日ともあり、早めに出発しても中央道で渋滞にあうことが予想されたので、便ヶ島でしばらく休息を取った後、R152 沿いの遠山の道の駅併設の温泉に浸かってから東京へ。それでも相模湖付近で 1 時間ほどの渋滞に遭い、都内に辿りついたのは 23 時頃になった。

天気はさほど良かったともいえなかったが、久々に 3 日間どっぷりと、また南アルプス南部の静かだが豊かな山々を歩くことができて、充実感のある山行だった。診療所シーズンの終わった秋以降、またこうして山に出られればと思っている。